

令和元年度新潟県病虫害発生予察情報・特殊報第2号  
(ネギハモグリバエ別系統の初確認)

令和元年11月5日  
新潟県病虫害防除所

1 病虫害名 ネギハモグリバエ別系統 *Liriomyza chinensis* Kato

2 作物名 ねぎ

3 発生経過

(1) 令和元年9月に新潟県下越地域の秋冬ねぎほ場で葉が白くなる被害を認めた(写真1)。

この被害状況は従来の食害の症状と著しく異なり、他県で発生が認められているネギハモグリバエ別系統の食害と類似していたため、農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センターに同定を依頼した結果、従来の遺伝子型(以下、「A系統」と略記)とは異なる別系統(以下、「B系統」と略記)と同定された。

(2) B系統の発生は、平成28年頃から京都府で、その後茨城県、富山県、千葉県、長野県及び埼玉県で確認されている。

4 形態および生態

(1) ネギハモグリバエのA系統とB系統は、両系統とも成虫の体長は約2mmであり、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色で、形態による識別は困難である。

幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する(写真2)。蛹は体長約3mmの褐色、俵状である。

(2) 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹となる。

5 被害

(1) B系統はA系統と比較して一葉あたりの幼虫が多く、一葉に複数頭幼虫が葉の内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害する(写真3)。

(2) B系統の初期の食害痕は、従来のA系統と同様で不規則な白線状であるが、進展すると近接した食害痕同士が癒合し、葉全体に及び、葉が白化したようになる。葉肉が食い尽くされて、表皮が浮いた状態になり(写真1)、表皮を剥離すると、多数の幼虫が確認される(写真2)。

6 防除対策

(1) 発生を認めたら、系統に関わらずネギハモグリバエに適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。

(2) 被害葉及び収穫残さは本虫の発生源となるので、残さは、ほ場内に放置せず、一カ所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。



写真1 B系統による葉の被害



写真2 被害葉内部の幼虫



写真3 従来（左）とB系統（右）の食害痕